



H28年度 企業向けセミナー を開催しました

平成 28 年 9 月 27 日に開催された企業向けセミナーは、「福岡県中小企業家同友会バリアフリー委員会」と「夢ふくおかネットワーク」の共催で開催いたしました。法定雇用率にとらわれず、広く共生社会を目指す企業が集まり、障がい者雇用についてともに理解を深め、学び合う場として企画されました。当日は 49 社総勢 66 名のご参加をいただき、2 部の交流会でも企業の担当者の方々が業種の枠を超えて情報交換を行い、とても有意義な勉強会となりました。

【企業セミナーの内容】

- 開会の言葉
- 福岡市教育委員会挨拶
- 福岡県中小企業家同友会挨拶
- 第 1 部

【基調講演】 和新工業株式会社

代表取締役社長 森 茂博氏

【分科会】 分科会ごと事例発表とディスカッション

- ① 清掃関係 (株)朝日ビルメンテナンス/太田 聡氏
- ② ものづくり関係 和新工業(株)/森 茂博氏
- ③ サービス関係 (有)ラピュタファーム/杉本 利雄氏
- ④ 介護関係 介護施設テポーレ千早/大塚 雄一氏

各分科会からの報告

- 第 2 部 交流会

基調講演

基調講演では、福岡県中小企業家同友会の副代表理事で「人を活かす経営」推進本部長の森茂博氏(和新工業株式会社代表取締役社長)より、経営者の視点から特別支援学校の生徒の実習受入れの体験と社員共育^{*}についてお話しいただきました。

森社長は「社員共育^{*}」の前に「社長教育」であると、社長自身が企業変革プログラムを実践。障がい者雇用についても自ら意識を変えていくことが周囲の変化につながり、企業風土づくりにつながっていくとお話しされました。



* 共育 ともに育つという意味であえてこの言葉を使っています。



(一社)福岡県中小企業家同友会バリアフリー委員会について

中小企業家同友会は、「中小企業の経営を良くしたい」という目的のもと、1957年4月東京で設立され、1963年3月に福岡県中小企業家同友会(以降同友会)が誕生しました。現在、全国47都道府県で約46,000名が加盟。福岡県下には、20支部があり、2,000名を超える会員が活動しています。具体的には10の常設委員会にわかれて活動しており、バリアフリー委員会もその常設委員会の一つです。

バリアフリー委員会では、共生社会の実現を目指し、障がい者雇用への理解と企業の参加促進、高齢者にとって生きやすい社会づくりを行政・諸学校・他団体と連携して進めています。

障がい者雇用の裾野を広げるために、まずは職場実習の受け入れを進めています。バリアフリー委員会として取り組むことで、成功した例、失敗した例、トラブルを回避した例等のデータが蓄積され、企業とご本人やその保護者、学校や支援機関とのスムーズな連携や解決策につながります。

また就労継続支援A型事業所が制度化されたときは、さっそくバリアフリー委員会で勉強会を開催しました。同友会内で数社のA型事業所が立ち上がり、200名を超える雇用が生まれたことは成果です。しかしバリアフリー委員会は、A型事業所を雇用の最終地点と考えておりません。A型事業所で働く喜びを味わい、仕事に従事するための基本的な生活習慣やマナーの学習、訓練をしっかりとやって、2000社を超える会員企業への一般就労のマッチングを目指しています。

そのためにも特別支援学校の皆様には、同友会事務局とバリアフリー委員会を通じた職場体験実習と就労活動をお願いしたいと考えています。

(福岡県中小企業家同友会 事務局)

第一分科会・・・清掃関係

基調報告 株式会社朝日ビルメンテナンス 太田 聡氏

第一分科会では、創業 66 年のビルメンテナンスの草分けの企業である株式会社朝日ビルメンテナンス様にご報告いただきました。現在知的障がい者 7 名を雇用、内 2 名は勤続年数 10 年以上という朝日ビルメンテナンス様では、特別支援学校から新卒採用の場合は 3 年生の間に夏休み・冬休み、そして卒業前の春休みと 3 回にわたって実習を行います。そこで少しずつ成功体験を積み上げ、社会人になる自信と覚悟をつけてもらうという狙いです。肝心なのは『同じ現場で働く社員』であり、最初の 1 年は全チーム員にインセンティブをつけるそうです。現場ごとにしっかり育てていくことが長い勤続につながるのでしょうか。「すべてが成功したわけではないが、ジョブコーチや家庭など外部との連携を通じて、まずは障がい者雇用にトライしてほしい」という熱のこもったお話に、参加者からは質問が相次ぎ、時間が足りないほどの盛り上がりでした。

(かわが司法書士事務所 河賀 裕子氏)

企業セミナー

第二分科会・・・ものづくり関係

基調報告 和新高工業株式会社 森 茂博氏



和新高工業様の取扱商品には特殊なものも多く、障がいの有無に関係なく、手順の明確化や意思疎通の容易化が求められる職場だと感じました。現在実習生を受け入れている下地として外国人を雇用した経緯があるとのことのお話でした。

意見交換会では「そもそも人には皆個性があるのだから、障がいの有無ではなく、どんな業務が適しているのかという観点で雇用すべきで、雇用される側にも雇用主を選ぶ権利がある」「雇用した障がい者同士の相性も心配」等の意見も出てました。

(黒木文康司法書士事務所 黒木 文康氏)

第四分科会・・・介護関係

基調報告
介護施設テポーレ千早 大塚 雄一氏

大塚氏が特別支援学校の実習生の受け入れを決めたのは、特別支援学校の合同技能発表会で生徒たちの様子を見て、その真剣さに感動したからとのこと。介護業界最大の問題は人手不足。テポーレ千早も例外ではなく、経営者を説得し、障がい者雇用を視野に入れた実習生の受け入れを始めたそうです。

実際に受け入れてみると特別支援学校の対応は細かく、また障がい者雇用における介護スタッフとしての課題も見えてきて、今後も実習の受け入れを進めていきたいとのことでした。この分科会では、障がい者雇用についての事例報告を初めて耳にしたという企業の方もいる一方、すでに障がい者雇用を行い、複数の事業所に一人ずつの雇用を目標にしているという企業の方もいて、障がい者が企業で働ける可能性が広がったことを感じる事ができた分科会でした。

(セピア商事株式会社 齋藤 智也氏)



第三分科会・・・サービス関係

基調報告 有限会社ラピュタファーム
杉本 利雄氏



ラピュタファーム様は農園からレストラン経営を行っている会社で、年間 6 万人が訪れる 6 次産業の見本になっています。もともと会社の立地や職種から、ラピュタファームでも人手不足が経営の悩みでした。そんな中で障がい者の方を 6 年前から雇用。初めは何もできなかったということでしたが、仕事を細分化し、リストアップすることにより、今ではなくてはならない存在として成長してくれたと杉本氏は話します。「教えたら伸びていく、できることを増やしていく」これは障がい者であってもなくても社員教育と同じであると感じました。「なぜ障がい者を活かすことができないのか」を常に念頭に置きながら、不登校や発達障がいなどで就労が困難な者にどう仕事をさせていくかなど、農園のバリアフリー化に奮闘中ということです。まさに人を活かす経営の大切さを学んだ分科会でした。

(I・WA・MI株式会社 三輪 公平氏)



企業は法定雇用率である 2%を順守することが求められます。法律であるので、守ることは経営者の責務であります。ただ、同友会内で社員数 50 名以上の会員(企業)さんはどれくらいおられるでしょうか?そもそも同友会が語る障がい者雇用とは、法定雇用率に基づく内容ではありません。誰もが当たり前に行うことができる幸せな地域社会を目指すためです。同友会運動の一つである地域づくりに障がい者問題を忘れていただきたいと思います。

過去の同友会での障がい者問題の報告より、実践事例からの学び、何のために働くのかを明確にしていく必要があります。特徴を 3 つにします。

第一に障がい者の仕事が企業に大きく貢献している。障がい者が働きやすい企業は他の社員さんにとってもバリアフリーで働きやすい環境になっている。就労意欲があれば自信につながって障がいのない人と変わりなく地域の一員として活躍できることを確信します。

第二に、障がい者のユニークで優れた特性を生かした職場づくりがされています。その際、適材適所の配置を可能にする経営者の感覚が問われます。障がいの

ある人たちが、毎日一生懸命働く姿から学ぶ社員さんへの教育効果は抜群で、まさに共に育ちあう姿そのものです。

第三に、障がい者雇用の意義は中同協の「中小企業における労使見解」の根幹であります。何のために生まれ、何のために働くのかを明確にしていく必要があります。経営理念や経営指針に障がい者雇用の観点を加え、社員共育や共同求人の実践を考えなければならぬと思います。

バリアフリー委員会としては障がい者問題を切り口に、人を活かす経営の高み・深みを皆様と共に学び、地域で広まる活動を継続実践していきたいと考えています。

人間尊重であり、障がい者と一緒に働く中で気づき、関わり合うことを大切にしています。人は、人によって支えられ、自らも人を支え、幸せを構築していきます。同友会会員の経営者の皆さんに、育ててみたいと思われる障がい者との出会いを創出できるバリアフリー委員会でありたいと考えています。

*中同協=中小企業家同友会全国協議会

特別支援学校生徒による合同技能発表会 及び 企業と教職員との交流会が行われました!

福岡地区、筑後地区の特別支援学校 10 校による合同技能発表会が去る 11 月 1 日に福岡県立小郡特別支援学校で行われました。これは福岡県主催で行われる取り組みで、特別支援学校高等部の生徒たちが日頃学校で学んでいる職業技能を企業の皆様の前で発表する場として毎年開催されています。福岡市教育委員会も「夢ふくおかネットワーク」事業として共催しており、近い将来、企業の戦力となってくれる人材を企業の方々に見ていただける絶好の機会と位置付けて各校への参加を呼びかけ、今年度は福岡市内から 4 校の参加となりました。

当日は福岡県内企業・団体 50 社 100 名あまりの採用担当者の方々が参加され、生徒たちによる学校紹介やそれぞれのブース内の展示品、個性豊かなデモンストレーションに見入っておられました。

発表会の後は各学校の教職員と企業担当者との交流会も行われ、障がい者雇用や人材確保のための情報交換の場として盛況でした。

「百聞は一見にしかず」と言いますが、生徒たちが学校での日頃の取り組みの成果をこの短い時間の中でも発揮することができ、実際、この技能発表会がきっかけに実習や雇用につながったケースもこれまでに報告されています。ある企業担当者の方は「何より一生懸命に自分たちの可能性をアピールする姿にとっても好感が持てた」と感想を述べられました。また生徒たちにとっても企業の方々と直接お会いする数少ない機会となり、貴重な体験として今後の就職活動に生かされることと思います。



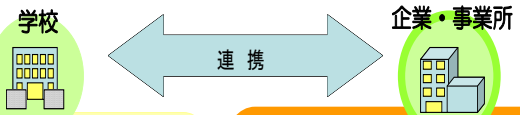
「夢ふくおかネットワーク」登録企業を募集いたします！

福岡市教育委員会は、企業・事業所、学校、関係機関、保護者、学識経験者等によるネットワークを立ち上げました。障がいのある市内高等部生徒の企業・事業所就職を、雇用される側（生徒）、雇用する側（企業・事業所）の両側から捉え、推進していく取組を行っています。登録いただいた企業・事業所様へは、特別支援学校に関する情報の発信、企業・事業所間での情報交換の場の提供などを行っています。

＜事業内容＞

- 総会（年1回） ● 会報発行（メールにて配信）
 - 各種セミナー開催
 - 学校見学会、雇用企業・事業所見学会などのイベント開催
- * 生徒の職場実習（インターンシップ）や雇用をお考えの企業・事業所様からのご相談を受けます

「夢ふくおかネットワーク」とは？



・生徒の就労意欲を膨らませる
・生徒の「働く力」を高める

・職場実習・就労先企業を上げていく
(ニーズにあった雇用・職場実習に関する情報を提供していく)



市立特別支援学校高等部生徒の
企業への就労促進を行うネットワークです

教育委員会を中心に 企業・事業所、行政、関係機関、学識経験者、保護者、教育関係者、企業団体などによる連携



夢ふくおかネットワーク登録 Q&A



Q.1 登録するとどんなメリットがありますか？

A.1 夢ふくおかネットワークに登録されますと、夢ふくおかネットワークやその他の機関が主催するセミナーやイベントのお知らせをメールにてご案内させていただきます。そのほか障がい者雇用や特別支援学校の情報などを記載した広報誌も配信させていただきます。

Q.2 会費や登録料が必要ですか？

A.2 登録に関しての費用は一切ありません。また協賛金や賛助会費などをお願いすることもございません。

Q.3 夢ふくおかネットワークは福岡市の事業ですが、福岡市内の企業や事業所でないとダメですか？

A.3 福岡市内の企業・事業所様に限定しておりません。また、支店や支所単位での登録も可能です。

Q.4 障がい者雇用の予定のない企業や事業所でも登録は可能ですか？

A.4 直接雇用や実習受入れの予定のない企業・事業所様でも登録ください。夢ふくおかネットワークは、特別支援学校高等部の生徒たちの就労・自立促進のための情報交換の場であり、登録企業様が直接就労や実習の受入れを行っていなくとも、障がい者雇用への理解を深めていただく場として、あるいは企業・事業所様同士をつなぎ、情報交換の場としてもお役に立てたいと思います。

*「夢ふくおかネットワーク」登録ご希望の方は発達教育センターまで

福岡市教育委員会 発達教育センター

福岡市中央区地行浜 2 丁目 1-6

TEL 092-845-0015

FAX 092-845-0025

E-mail yume_network@city.fukuoka.lg.jp

HP <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/>

「夢だより」についてのご感想、ご意見などをお寄せください。

※左記参照

